

新興国向け立型旋盤の生産拡大を進める オーエム製作所

台湾鷗愛慕(股)有限公司(以下、台湾オーエム)は、オーエム製作所の100%の子会社として2010年7月に設立された。2011年から台中にて本格生産を始め、2013年の3月からは南投の新工場に生産拠点を移し生産量、製品ラインアップの拡大を図っていく。今回は、台湾オーエムの大森董事長を訪ね、台湾拠点の位置付けや、今後の事業展開についてお話を伺った。



台湾鷗愛慕(股)有限公司董事長 大森博氏

—オーエム製作所の事業内容及び台湾オーエムの位置付けについて

オーエム製作所(以下、当社)は、主に工作機械の製造販売を行っており、立旋盤の分野では日本国内首位のマーケットシェアを占めています。アメリカ(テキサス)、中国(上海)、台湾(台中)の3カ国に海外展開しており、台湾拠点は当社初の海外生産拠点です。台湾以外の2拠点は、販売・営業サポート・アフターサービスを提供しています。

現在台湾オーエムでは、新興国向けのCNC立旋盤「OM-REXER」の製造を行っています。この製品は、新興国向けの戦略機という位置付けで、当社が台湾生産を想定して特別に開発した汎用CNC立旋盤で、日本では生産していない機種です。主な販売先として、生産量の約半数を中国、その他米国、韓国へ輸出しています。

以前から当社の立旋盤は、在台のエレベーター製造会社、ニッティングマシン製造企業を中心に納入されていましたが、ここ10年でそれら顧客の大半が中国へ製造拠点を移転したため、現在では在中国の台湾企業や、日系、中国地場企業などに販売しています。

—台湾進出のきっかけについて

台湾との事業交流は、大阪(南港)の台湾貿易センター(TAITRA)での情報提供をきっかけにスタートしました。台中にある邁鑫機械工業(以下、Manford社)から、先ずは日本で製造している立旋盤のユニット調達を開始しました。

その後、兩岸経済協力枠組協議(以下、ECFA)の早期関税撤項目(以下、EH)に立旋盤が含まれた点と、Manford社の部品生産の品質が安定したという二つの理由から、台湾に生産拠点を構える決定をしました。2010年7月に日本本社の100%子会社として台湾オーエムを設立し、日本から台湾オーエムへ生産委託という形で海外戦略機「OM-REXER」の生産を開始しました。工場は初期投資の規模と生産量を考慮しManford社の工場の一部を借りる形で、組立生産を行っています。

合弁ではなく独資で進出した理由は、生産製品の販売量の変動幅が大きい点にありました。大型立旋盤であるREXERは、景気によって販売量が大きく左右される製品であり、合弁という事業形態をとった場合、合弁先にとって大きな事業リスクになると考えました。

—新工場設立について

今年3月に、南投にある南崗工業区に新たに1000㎡程の新工場を増築し、生産拠点を台中の既存の工場から新工場に移転します。南投新工場は、賃貸という形で台湾オーエムが使用しています。従業員も、新工場稼働にともない、現在10名程のところ、来年には20名規模、最終的には30名規模に拡大していく予定です。南投新工場では、REXER以外にもNeo-EX Series(ミドルエンド立旋盤であるVTLEXの部品点数を3割ほど削減した汎用版)の組立を予定しており(3月末に初号機を完成予定)、現時点で試作

日本企業から見た台湾

段階に入っています。Neo-EXは日本も含めた米国、中国、韓国、東南アジアが主な市場であり、建設機械、ニッティングマシンのベアリングの製造及びジェットエンジン、重電、バルブ・ポンプの製造に使用されています。

台湾生産の優位性について

初の海外生産拠点を台湾に決めた理由は、主に2点あります。一つは、品質を保ったコストダウンが可能な点です。組立の技術者や事務員を含めた人件費だけを単純に比較した場合、台湾よりもコストが安い国は他にもあります。しかし、当社の取り扱う製品がミドルからハイエンド製品の為、人件費などのコストダウン幅よりも製品の質が重要です。そこで、技術力があり質の高い部品を供給可能なサプライヤーの集積がある台湾は、生産拠点として魅力があります。現在では、REXERに使用される部品の内、当社製品用にカスタマイズされたベアリングを日本から輸入する以外は、すべての部品を台湾内で調達しています。

逆に、立旋盤以外に海外生産を検討中の製品である自動包装機に関しては、製品の精度要求が立旋盤に比べ低く、コストがより重視されるため、中国やインドネシアなど台湾以外の国でも製造が可能と考えています。

台湾生産へ切り替えたことによるコストダウンについては、REXERが日本で生産していない製品ということもあり、単純比較で何%のコストダウンとは明確に計算はできませんが、南投工場を製造を予定しているNeo-EXについては日本製造時に比べて30%のコストダウンの可能性があると考えています。

その他に、立旋盤がECFAのEH品目に含まれた点も、台湾に生産拠点を設けた大きな理由になります。生産量の半分を中国へ輸出する製品のため、ゼロ関税での輸出が可能になり、在中国の顧客に大変喜ばれています。同時に、中国における当社製品の価格競争力が向上しました。

新興国市場での競合について

REXERは汎用機であり、主な輸出先の中国大陸市場では、競合が多数存在します。特に、中国・台湾・韓国工作機械メーカーは、昨今技術力が急速に向上しており、大陸

市場での強力な競合となっています。

しかし、品質とアフターサービスの質については当社がまだ優位にあると考えています。特に、中国の工作機械メーカーに関しては、製品を売ることだけに特化した、「売り切り」の事業を行っており、価格に関してはかなり低く抑えられている一方、アフターサービスには注力していません。実際に顧客の中でも中国メーカーの工作機械を購入した後、メンテナンスなどのアフターサービスに不満をもち、当社がその機械の修理やメンテナンスを依頼されたこともありました。

今後の事業展開

現在では組立生産のみを行っていますが、今後は部品加工製造や販売へと台湾拠点の機能拡大を行い、最終的には開発機能を持つ拠点到成長させていきたいと考えています。台湾拠点設立から2年が経ち、日本で台湾生産を前提に開発されたREXERの生産も安定しました。そして、今年からは日本で製造している製品の組立を担う等、台湾オーエムの技術力が向上しています。そこで今後は、日本で生産している工作機械の組立だけでなく、台湾主導で開発から製造が可能な拠点にしていきたいと考えています。そのためには、まずは新工場とともに、新しく生産を開始したNeo-EX Seriesの品質を安定させ、台湾事業を軌道に乗せていくことに注力していきます。

ありがとうございました。

台湾鷗愛慕股份有限公司の基本データ

会社名	台湾鷗愛慕(股)有限公司
設立	2010年7月
資本金	5000万台湾元
社員数	10名(内、日本人5名)
事業内容	工作機械(CNC立型旋盤)の製造

注)2013年1月時点のデータによる
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理